

## 第32回 温泉関係功労者被表彰者(50音順)

氏名	年齢	役職等	功績概要
井上 源喜 <small>イノウエ ゲンキ</small>	67	大妻女子大学教授	昭和59年より温泉水及び熱水環境中の有機物に着目した研究を行ってきた。 特に、温泉水及び熱水環境中の全有機炭素や全窒素の定量を始め、多数の有機化合物のガスクロマトグラフ・質量分析計を用いた分析手法の開発に貢献した。これらの研究は、温泉資源の特徴の把握及び温泉利用における安全性確保並びに飲泉基準の設定の際の基礎技術として有益であり、その成果は温泉資源の保護と適正利用に多大に貢献した。
鹿熊 裕二 <small>カクマ ユウジ</small>	55	(株)小川温泉代表取締役 富山県環境審議会温泉専門部会 専門員 富山県ホテル・旅館生活衛生同業 組合常務理事 朝日町観光協会会長	昭和63年から24年以上にわたり、富山県環境審議会温泉専門部会専門員として、温泉事業者としての専門的知見から助言を行う等、温泉行政の推進に多大に貢献した。
熊井 久雄 <small>クマイ ヒサオ</small>	73	大阪市立大学理学部名誉教授 大阪府環境審議会温泉部会専門 委員	平成10年から大阪府環境審議会温泉部会委員として15年間審議に参画し、専門的知見から助言を行う等、温泉の保護及び適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に多大に貢献した。
小林 哲夫 <small>コバヤシ テツオ</small>	63	鹿児島大学大学院理工学研究科 教授 鹿児島県環境審議会温泉部会委 員	平成4年から17年以上にわたり、鹿児島県環境審議会温泉部会において、専門的知見から助言を行う等、温泉行政の推進に多大に貢献した。
佐藤 好億 <small>サトウ ミチヤス</small>	68	(一社)日本温泉協会常務副会長 (株)ホテル大丸代表取締役 福島県温泉協会会長 (一社)日本秘湯を守る会会長	平成9年から15年以上にわたり、(一社)日本温泉協会において温泉資源の保護と適正利用に関する広報普及活動の推進に努めるとともに、福島県温泉協会において副会長、会長を歴任し、温泉知識の普及を目的とした講習会を県内各地で開催するなど温泉資源の保護と適正利用に多大に貢献した。
周藤 賢治 <small>シュウワウ ケンジ</small>	70	新潟大学名誉教授 新潟県環境審議会温泉部会長	平成10年から15年間にわたり、新潟県環境審議会温泉部会において、専門的知見からの助言を行うとともに平成17年からは会長として審議の中心的役割を果たし、取りまとめに尽力する等、県内の温泉資源の保護と温泉の適正利用の推進に尽力し、温泉行政の推進に多大に貢献した。
首藤 勝次 <small>シュトウ カツジ</small>	59	竹田直入温泉連絡協議会顧問 大分県竹田市長	長湯温泉の文化と歴史のシンボルである「御前湯」の初代館長として、長湯温泉及び飲泉文化の定着に尽力。また、地域資源を生かした全国初の取組みとして「温泉療養保健制度」をスタートさせ、温泉を活用した予防医学と長期滞在型の健康をテーマにした観光振興、地域づくりを推進するなど、日本一の国民保養温泉地を目指し積極的に取り組んでいる。 さらに、竹田市内各地の温泉資源を保全・活用するために組織された「竹田直入温泉連絡協議会」の顧問として、温泉地の特色ある資源を活かしたより良い地域づくりに取り組む等、長湯温泉の適正利用の推進に多大に貢献した。

タカキ ケンジ 高木 健司	60	松江工業高等専門学校数理科学 科教授  島根県自然環境保全審議会温泉 部会委員	平成9年から15年以上にわたり、島根県自然環境保全 審議会温泉部会において、専門的知見から助言を行う 等、温泉行政の推進に多大に貢献した。
タナカ タダシ 田中 正	66	筑波大学名誉教授  茨城県自然環境保全審議会委員	昭和48年から40年にわたり、地下水研究に従事し、温 泉水の水素及び酸素の安定同位体比の測定結果をと りまとめ、温泉水が降水を起源とする循環水であるこ とに着目し、温泉水の多くが永続的に利用可能な共有 自然資源であることを示すなど、温泉と地下水について 研究してきた。また、平成13年から11年間にわたり茨 城県自然環境保全審議会委員を務め、専門的知見か ら助言を行う等、温泉行政の推進に多大に貢献した。
ヒノキダニ オサム 檜谷 治	54	鳥取大学大学院工学研究科教授  鳥取県環境審議会温泉部会部会 長	平成9年から15年以上にわたり、鳥取県環境審議会温 泉部会において専門的知見から助言を行う等、温泉行 政の推進に多大に貢献した。
カミノヤマ 上山温泉利用協 同組合		理事長 五十嵐航一郎	地域の温泉資源を保護するため昭和51年から温泉の 集中管理に取り組んでいる。その徹底した源泉管理の 姿勢は、他の温泉地が見学や研修に訪れ、経験や実 績を通じた助言を行う等、他の温泉地の模範となっ ている。 また、ドイツで実践されている気候性地形療法のウォ ーキングと温泉療法の手法による医学的効果を検証す るための「かみのやま温泉型クアオルト事業」にも積極 的に参加。これまで17,000人以上が参加し、市民や宿泊 者の里山歩きのための環境整備や温泉を活用した健 康増進方法を伝授するなど、新たな温泉保養地づく りの中心的役割を果たす等、温泉資源の保護と適正利 用の推進に多大に貢献した。